

令和元年度 指定管理施設運営状況評価表

1. 施設の概要

施設の名称	むつ市下北自然の家	
指定管理者	団体名	一般財団法人むつ市教育振興会
	代表者	理事長 花山 俊春
	所在地	むつ市大畑町観音堂25番地1
指定期間	平成29年 4月 1日 ~ 令和2年 3月31日 (3年間)	
指定管理業務の概要	1 施設の使用許可に関すること 2 施設の利用料金の徴収に関すること 3 食事代、クリーニング代及び教材費の徴収に関すること 4 青少年の集団宿泊生活の指導及び助言に関すること 5 野外活動、体育及びレクリエーションに関すること 6 自然観察その他の自然に親しむ学習活動に関すること 7 施設の維持、管理及び修繕に関すること 8 施設の特性を活かした利用促進に関すること 9 その他施設の設置目的を達成するために必要なこと	

2. 収支の状況 ※消費税及び地方消費税を含んだ額を計上すること。自主事業分は含まないこと。

※原則として他会計からの繰入金及び他会計への繰出金は含まないこと。

※人件費には、經常の指定管理業務にかかる人件費のみを記載し、臨時的な日雇い雇用などの賃金を含まないこと。

単位：千円

区 分	計 画 額 ①	実 績 額 ②	増 減 (②-①)
収 入 合 計 (A)	90,730	89,118	▲1,612
うち利用料金額	8,048	6,406	▲1,642
うち指定管理料	82,622	82,622	0
支 出 合 計 (B)	90,730	87,450	▲3,280
うち人件費	56,771	55,042	▲1,729
収支差 (A-B)	0	1,668	1,668
市への納入金	0	0	0
計画額と比較した実績額の増減理由	<p>収入</p> <p>利用料合計は、前年実績7,592千円であったが当期は1,186千円少ない6,406千円であった。各種スポーツ大会の中止や大規模団体の受入れが少なかった影響で宿泊数も減少した。又、小雪や新型コロナウイルス感染拡大防止に係る自粛により受入及び主催・自主事業のキャンセルも相次いだことが要因となっている。次年度は、積極的な広報活動や宿泊利用団体の増加に努めたい。</p> <p>支出</p> <p>支出の執行額は、昨年度より3,635千円少ない、87,450千円となった。</p> <p>今年度の後半は、小雪や新型コロナウイルスの影響で予め、予約していた団体のキャンセルや相次ぐ事業の中止で支出するはずだった予算が執行できなくなったことが要因となっている。</p>		

3. 施設利用の状況

単位：人

利用者数	区 分	計 画 ①	実 績 ②	増 減 (②-①)
	宿泊	1,600	1,083	517
食事	13,000	10,352	2,648	
賃貸	170	146	24	
リネン	2,400	1,679	721	
教材	2,800	2,872	72	
計	10,000	8,804	1,196	

利用者の声とその対応状況 ※利用者アンケートの実施 (有・無)

4. 自主事業の実施状況

単位：人、千円

事業名	利用者数	収 入	支 出
オートキャンプ	0	0	19
手作り体験「そば打ち」	50	67	51
家族でBBQ	20	37	43
家族でキャンピング	14	43	46
手作り体験「そば打ち」	28	43	42
伝統体験「としな作り」	50	46	45
食のイベント	28	47	42
手作り体験「べこもち作り」	0	0	12

5. 個別項目評価 ※指定管理者と市の所管課が評価 (A：優良 B：適正 C：要改善)

評価基準 A (優 良)：計画された業務水準を大きく超える、独自の取組を実施するなど、特にめざましい成果があった。
 B (適 正)：計画された業務水準を概ね達成した。
 C (要改善)：計画された業務水準を達成できなかった。

評 価 項 目	自己評価	市の評価
(1) 施設設置目的に添ったサービス向上に関する取組み状況		
①開館時間、休館日等を守り、施設利便性の確保に努めたか。	A	B
②施設の使用許可、使用料減免等が適正、円滑に行われたか。	A	B
③利用者に対する接客マナー等、職員の勤務態度は適正だったか。	B	B
④利用者の意見を聴取し、それらを反映する取組みを行ったか。	A	B
(2) 利用促進に関する取組み状況		
①施設利便性を高める努力を行い、効果が得られたか。	B	B
②潜在的な利用者等に営業広報活動を行い、利用アピールをしたか。	B	B
③自主事業を企画・実施し、効果が得られたか。	B	B
(3) 効率性の向上に関する取組み状況		
①施設管理経費を低減するための取組みを行い、効果があったか。	A	A
②収入増を図るための取組みを行い、効果があったか。	B	B
③職員の資質・能力向上を図る取組みがされたか。	A	A
(4) 施設の適正な維持・管理に関する取組み状況		
①施設の維持管理、運営に当たる人員配置は適正であったか。	B	B

②設備・備品の維持管理及び修繕が適切に行われたか。	B	B
③労働関係法令等を遵守し、適正な管理を行ったか。	A	A
④利用料金の収受及び施設管理経費の支出は適正であったか。	A	B
(5) 平等利用、安全対策、危機管理等に関する取組み状況		
①利用者が平等に利用できるよう施設利用情報提供に配慮したか。	A	B
②日常の事故防止等の安全対策は適切であったか。	A	B
③防犯、防災対策等の危機管理体制は適切であったか。	A	B
④利用者の個人情報保護は徹底されていたか。	A	B

6. 指定管理者総合評価 ㊤自己評価をAとした項目の内容及びCとした項目の改善策を記載すること。

はじめに、個別の評価項目に関し、「A」評価とした理由を述べる。

個別評価表の「(1) ①開館時間、休館日等を守り、施設利便性の確保に努めたか。」については、利用ガイドを作成し、各学校へ配布、説明するとともに、施設の受付窓口へ設置して利便性の向上に努めた。また、イベント情報、施設利用の案内などホームページ上からの利用申込みもできるよう工夫した。

「(1)②施設の使用許可、使用料減免等が適正、円滑に行われたか。」については、各利用団体と事前打ち合わせを重ね、迅速かつ正確に関係書類を提出し、適正かつ円滑におこなうことができた。

「(1)④利用者の意見を聴取し、それらを反映する取組みを行ったか。」については、利用者の声をアンケートにより聴取し、反映させる取組をおこなった。取組みの結果は、月次及び年度の事業報告にとりまとめて報告している。

「(3)①施設管理経費を低減するための取組みを行い、効果があったか。」については、館内清掃や登山コース整備等を業者委託することなく職員で実施するとともに、環境整備のために廃材を活用し、職員が作り替えて再利用する取組みをおこなった。

「(3)③職員の資質・能力向上を図る取組みがされたか。」については、職員研修として、食事提供の異物混入防止、アレルギー対応、防災講習、ジオパーク研修及び労働災害防止に繋がる講習会を計画的に実施し、職員の技術や知識の向上に努めた。また、今年度、社会教育施設に欠かすことのできない社会教育主事講習を受講したほか、海浜の活動時に使用する船舶免許取得者も増えることとなった。

「(4)③労働関係法令等を遵守し、適正な管理を行ったか。」については、労働者に過剰な負担がかからないよう業務の見直しを定期的に行い、また、労使協議の場を設け、定期的話し合うことで労務管理を徹底した。

「(4)④利用料金の収受及び施設管理経費の支出は適正であったか。」については、収受した料金の確認は必ず2回以上、2人以上が行うこととし、施設管理経費を支出する際も同様に正確かつ適正な庶務に努めた。また、現金、諸帳簿等の確認については半月ごとに実施している。

「(5)①利用者が平等に利用できるよう施設利用情報提供に配慮したか。」については、ホームページ及びブログによる宣伝、情報発信に努めた。イベントの様子や参加者の声を画像とテキストで視聴者にわかりやすいよう工夫した。また、4月、7月、11月には、主催・自主事業の案内を利用者個々に発送している。

「(5)②日常の事故防止等の安全対策は適切であったか。」及び「(5)③防犯、防災対策等の危機管理体制は適切であったか。」について、ハード面では業務委託により建築設備（防火設備、換気・排煙設備、非常用照明設備）、夜間の入退室管理、昇降機、給排水設備、浄化槽設備等の法定定期点検に実施し、その結果は市へ報告している。ソフト面では、イベント開催に当たっては準備から事後の後始末まで、その実施計画を職員へよく理解させ、情報共有することで万全の体制で望んだ。また、「公共施設において、職員による瑕疵などあってはならない。」ことを全職員が認識し、取り

組んできた。指定管理者として最大限努力した結果であり、「A」評価とさせていただいた。

「(5)④利用者の個人情報保護は徹底されていたか。」については、当然実施されるべきことではあるが、職員一人一人がそのことを良く理解し、取り扱いに関しても確実かつ適正に処理することができた。本件については、評価を「A」とさせていただいた。

次に、令和元年度指定管理に関し、所見を述べる。

令和元年度は、指定管理2期目の最終年度であった。これまでの経験を生かして多くの利用者にならんと触れ合う体験活動を提供し、誠意ある対応に努めた。社会教育施設としての特性を生かしながら活動の充実を図り、癒しと潤いのある施設としての役割を担うことを目標に掲げて事業運営に取り組んできた。

また、年度最初から利用者増を目指して各事業の見直し及び主催・自主事業の内容も工夫を凝らすなど利用者満足度に重点を置いて実施した。各種スポーツ団体等や一般の利用団体の誘致、ジオパーク関連事業や出前講座の実施、オートキャンプ等を積極的に行ってきた。今年度の利用状況は、利用団体数 371 団体（H30 は 369 団体）、利用人数 6,299 人（H30 は 7,190 人）利用総延べ人数 8,804 人（H30 は 10,507 人）となり、前年度と比較し、利用者数 891 人減、利用延べ人数は 1,703 人が減少した。前年度より利用団体が多少増えたものの、一団体当たりの人数や宿泊を伴う利用の減少により、利用料金も大幅に目標を下回る結果となった。特に6月と8月の宿泊数の減少と冬季の小雪や新型コロナウイルスの影響が大きかった。当初、職員が事業所に赴いて当施設の事業説明や案内書の配布、ブログによる活動状況の掲載等を行ったが、施設利用促進には繋がっていない。

このようなことから、今後、広報活動の在り方を精査し誘客できる体制を構築していきたい。主催・自主事業では、従来の取り組みに加えて、ジオサイト見学、海辺の自然観察、磯釣り等の体験活動を取り入れながら、景観や自然への理解を深める機会を増やしてきた。当施設はジオパーク拠点施設でもあることから、ちぢり浜での観察会を通じて地域住民の意識向上や環境整備に係る事業を実施してきた。利用者からは大変好評であった。

前年から実施しているオートキャンプ事業は、宣伝の周知不足等でいまだ利用がない。施設の不備もあるが、来年度に向けて広報活動等の検証をすることとしている。昨年度から実施している「出前講座」は、市内大規模校での「焼杉ストラップ」「ロープワーク」に加え、高齢者向けの「ニュースポーツ」を実施した。諸事情により自然の家に来所できない団体等にも好評であり、閑散期における利用者数の確保に寄与したが、年明けから年度末にかけての小雪や感染症に係る自粛でキャンセルが相次いだ。

施設設備の維持管理及び安全管理では、食の安全を確保するため調理員の衛生及び体調管理は不可欠なことから調理員が占有できるトイレの整備をした。その他の施設設備も経年劣化による破損等もあったが、利用者には不便をかけることなく、軽微なものについては速やかに職員の修復作業で対応し、利用者の安全・安心を最優先にして、施設の修理営繕等の取り組みを継続してきた。

熊やスズメバチ等の危険動物の対策として活動前、活動中も入念に行ったことで利用者の安全を確保し無事故で終えることができた。次年度に向け安全管理マニュアル等の整備をさらに進めたい。

地域貢献としては、地域住民と日頃から国道の清掃やちぢり浜海岸のごみ清掃、地域の例大祭に参加など活動を通して連携を深めてきた。

最後に、次年度はより魅力ある社会教育施設となるよう利用者ファーストで活動に取り組み、利用者の増加を図っていきたい。

7. 市の所管課総合評価 ㊤市の評価をCとした項目についての指導内容も記載すること。

令和元年度の利用者数は8,804人となり、計画の10,000人までには届かなかった。今後も施設利用促進に向けた宣伝・広報活動を強化し、誘客に繋がることを期待する。統計資料を見ると手作りイカダ、ニュースポーツ、野山の自然観察会の利用団体数が最も多く、主催事業・自主事業ではジオサイト見学、海辺の自然観察、磯釣り等の体験活動が好調であった。その一方、オートキャンプ、黒森山登山、源流ハイキング、海藻のしおり、バードウォッチングは低調に終わった。次年度は、その低調の要因を検証して取り組んでいただきたい。

全体的には、事業運営、施設管理、会計管理、職員研修、地域貢献活動など、いずれも優れている。次年度も利用者の安全安心を第一に安定的な管理運営をお願いしたい。